

修士論文（要旨）

2022年1月

低栄養高齢者の特性について
—北京東城区の調査から—

指導 新野 直明 教授

老年学研究科

老年学専攻

220J6008

陳 浩蒙

Master's Thesis(Abstract)
January 2022

Characteristics of Elderly People with Low Nutrition: From a survey in
Dongcheng District Beijing

Haomeng Chen
220J6008
Master's Program in Gerontology
Graduate School of Gerontology
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Naoakira Niino

目次

第1章：緒言	1
1.1 研究背景.....	1
1.2 先行研究.....	2
1.2.1 低栄養の定義.....	2
1.2.2 高齢者の低栄養要因	2
1.2.3 低栄養が高齢者に対して及ぼす影響.....	2
1.2.4 北京の高齢者における低栄養問題の認知度	3
1.3 研究目的.....	3
2.1 調査対象.....	3
2.2 調査方法.....	4
2.3 分析方法.....	5
2.4 倫理的配慮	6
第3章：結果	7
3.1 回答者の特性.....	7
3.2 重回帰分析の結果.....	8
第4章：考察	8
4.1 高齢者の栄養状態の分析	9
4.2 高齢者の低栄養要因の分析.....	9
4.2.1 社会的な要因	9
4.2.2 精神心理的な要因.....	9
4.2.3 身体的な要因.....	10
4.2.4 経済的な要因.....	10
4.3 本研究の限界.....	10
第5章：結論	11
謝辞	11
参考文献	I

第1章：研究背景

中国は人口数が多く、高齢者人口の規模も非常に大きい。現在、中国は高齢者人口の数が最も多い。世界の国々と比べて、中国では高齢化が短期間に急速に進み、その規模も大きく、現在、高齢化の程度はすでに世界の平均を超え、絶対多数の発展途上国の水準を超えている。中国の高齢化は今後も引き続き進行し、2020年には60歳以上の高齢者人口が2億5,000万人近くに達し、総人口に占める割合は17.8%に達した。2030年にはこれが更に3億6,500万人となり、割合は25%を超えるものと予想されている。更に2050年になると、世界で、4人の高齢者の中の1人は中国人という状態になる。今後数十年にわたる高齢化の進展の中で、中国の高齢者人口数は一貫して世界第1位となる。

北京は中国の首都として、1990年から2015年にかけて、人口が急速なスピードで高齢化している。2015年までに、北京市の総人口は16,097,037人、そのなかに60歳以上の高齢者は3,161,457人で総人口の19.6%を占め、65歳以上の高齢者は2,102,503人で総人口の13.1%を占め、超高齢者は555,816人で総人口の3.5%を占めている¹⁾。2015年末のデータから、北京市の高齢化は極めて深刻である。

高齢者数が急増する北京では、高齢者が抱える問題も非常に多様化、深刻化している¹⁾。その中で高齢者の低栄養問題は注目されている大きな問題の一つである。2015年の中国老年学雑誌によると²⁾、北京の高齢者は16%が低栄養である、約35%の高齢者は栄養リスクがあった。しかもこの数値が年々上昇しつつある。高齢者における低栄養の発生は、予後に影響を与える非常に重要な要因であり、死亡率と密接な関係がある栄養状態は高齢の予後や生活の質に影響を及ぼす最も重要な要因の一つである。低栄養状態は体の抵抗力の低下を引き起こす、また、低栄養状態は、病気の治癒を遅延させる、死亡率を上昇させるなどの報告もある²⁻⁴⁾。中国は2000年から高齢社会に突入した、しかし、この20年間に高齢者の低栄養問題への注目度は高くない。近年、高齢者の低栄養問題が徐々に注目されるようになったが、北京の高齢者を対象とした研究はほとんどない。そのため、北京においても、高齢者の低栄養について研究が必要となっている。

本研究は、北京城東区の社区に居住する65歳以上の人で、低栄養と認定される人を対象として、高齢者総合的機能評価(CGA)のアンケートで身体的、精神心理的、社会的の3つの領域にわたって特性を調査する。

第2章：対象と方法

2.1 調査対象

北京東城区の区役所許可と地域協議会の同意を得て、2021年9月から10月にかけて同区の社区に居住する65歳以上の350人の栄養状態を調べ低栄養者を抽出し、その低栄養者を対象に調査を行った。

2.2 調査方法

まず協力依頼書を作って、自治委員会の会議室で調査の主旨、方法、倫理的な配慮を記す調査協力依頼の文書を用いて説明し、調査に同意し協力を得られる人に簡易栄養状態評価表を配布し、当日に回収した。その後、簡易栄養状態評価表(MNA)ポイント⁵⁾が17未満の低栄養高齢者を特定し、対象となる集団のフレームのなかからくじ引きを行い、無作為に50名を抽出した。抽出した人に対して、会議室で1日1種類(合計5種類)のペーパースでアンケート調査票(内容は後述)を配布し、5日間にわたり調査をおこなった。

栄養状態をMNAで確認した後、低栄養の高齢者に対して、西永の論文⁶⁾を参考に、高齢者の状態について、医学的評価だけでなく、生活機能、精神機能、社会・環境(生活環

境や介護環境、家族や友人などの人間関係)の3つの面から総合的に捉えて問題を整理し、評価を行った。

2.3 分析方法

上記の調査に基づいて、高齢者の様々な状況をまとめて分析し、調査すべき影響要因をリストアップして個別に分析した。関連要因を以下の4つに分類した。(1)年齢、性別、配偶者の有無、学歴、前職などの社会学的要因、(2)うつ病や認知機能障害の有無などの精神心理的な要因(3)個人の月収、医療保険や社会保険への加入状況などの経済的な要因(4)IADLポイントなどの身体的な要因。

線形相関に基づいて重回帰分析を行った。北京の低栄養高齢者のMNAポイントを従属変数とし、関連要因を独立変数として、重回帰分析法を用いて分析し、経済的、身体的、社会的、精神心理的の要因が栄養状態(MNAポイント)に与える影響を分析した。

質問票の入力にはExcelを使用し、収集したデータを再度確認し、誤りがある場合は元のデータを照会して比較し、適時誤りを修正した。統計処理にはSPSS21.0を用いた。

第3章：研究結果

重回帰分析の結果、性別、前職、収入、うつ病評価尺度、IADLが、低栄養高齢者における栄養状態と有意に関連した($P < 0.05$)。年齢、民族、学歴、配偶者の有無、社会保険、医療保険、HDSRなどの要素は、栄養状態については統計的に有意な影響がなかった。

第4章：考察

北京では、高齢化社会の進展に伴い、高齢者が抱える問題も非常に深刻となっている²⁾。2015年の中国老年学雑誌によると、北京の高齢者は16%が低栄養であり、約32%の高齢者は栄養リスクがあった。しかもこの数値が年々上昇しつつある⁵⁾。そこで本研究では、北京城東区のA社区に居住する65歳以上の人で、低栄養と認定される人を対象として、高齢者総合的機能評価(CGA)のアンケートで身体的、精神心理的、社会的の3つの領域にわたって特性を調査した。重回帰分析により高齢者のIADL、収入、うつ病評価尺度、前職が低栄養高齢者の栄養状態(MNAポイント)に有意な影響を与えることが示された。

第5章：結論

北京の1地区の低栄養高齢者を対象に、栄養状態と関連する要因を調べた。結果として、高齢者のIADL、収入、うつ、前職が栄養状態と有意に関連し、IADLが高い、収入が高い、うつ傾向がない、専門技術者の場合は、栄養状態を示すポイントが高かった。低栄養高齢者の栄養状態を考える際には、これらの要因への配慮も重要であることが示唆された。

参考文献

- 1) 袁海霞.北京市人口老龄化现状分析[J].劳动保障世界, 2019,534 (14) :83-85.
- 2) 河海大学公共管理学院.常亚轻,黄健元.人口老龄化研究的热点与发展趋势[N].中国人口报.2020年/3月/20日/第003版
- 3) 邵海南.北京市中老年人口生活方式与健康状况关系研究[D].2011:42-44
- 4) 周丽平,孙建萍,杨支兰,等.养老机构老年人营养管理研究进展[J].中国老年学杂志, 2016, 36 (03) :753-755.
- 5) 丸山たみ, 木川眞美, 三浦麻子, 清水進. 介護老人福祉施設における MNA (Mini Nutritional Assessment) による栄養評価の試み日本栄養・食糧学会誌. 2006 ; 59(4) :207-213
- 6) 西永正典 : 総合機能評価 (CGA) の臨床応用とその意義. 日老医誌 37:859-865、2000